

国内の畜産物の需給動向

牛 肉

7 年 5 月の牛肉生産量、前年同月比3.4%減

生産量

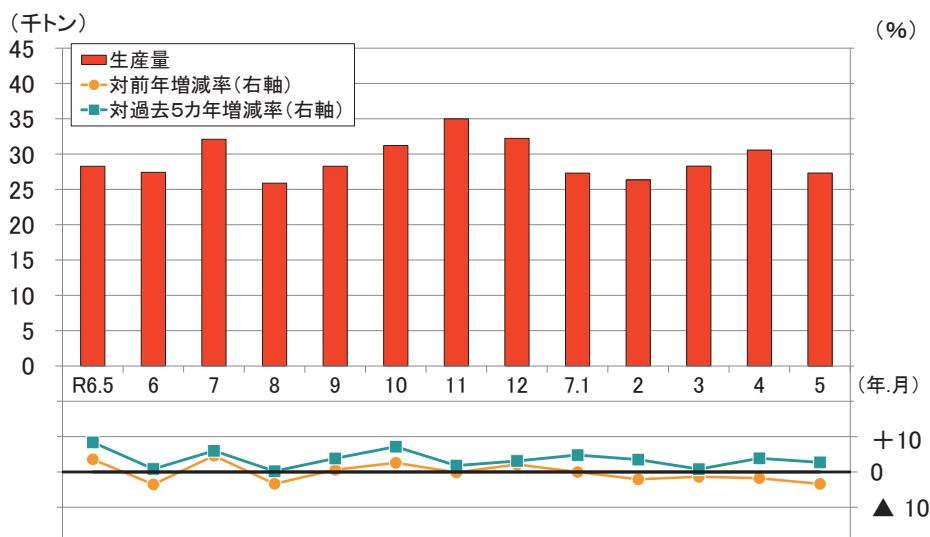
令和 7 年 5 月の牛肉生産量^(注1)は、2 万 7320 トン（前年同月比3.4%減）と前年同月をやや下回った（図 1）。品種別では、和牛は 1 万 4351 トン（同2.9%増）と前年同月をわずかに上回った一方、交雑種は 7350 トン（同2.8%減）とわずかに、乳用種は

5572 トン（同14.0%減）とかなり大きく、いずれも前年同月を下回った。

なお、過去 5 カ年の 5 月の平均生産量との比較では、2.7%増とわずかに上回る結果となった。

（注 1）生産量の合計は、その他の牛、子牛を含む。

図 1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

5 月の輸入量について、冷蔵品は、国内需要が低調な中、現地価格の高止まりの影響などにより、豪州産を除くほとんどの輸入先

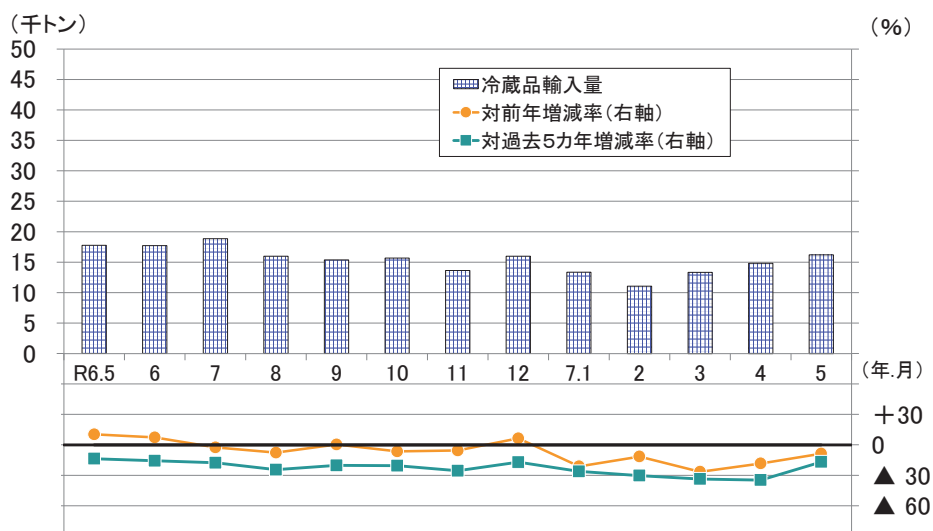
からの輸入量が減少したことなどから、1 万 6226 トン（前年同月比8.7%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図 2）。冷凍品は、豪州産のうち主に加工用のひき材などに使用されるトリミングの輸入量が増加したことや

米国産のうちショートプレートは現地価格の軟化などにより増加したことなどから、3万2161トン（同4.7%増）と前年同月をやや上回った（図3）。この結果、輸入量の合計^{（注2）}では、4万8403トン（同0.2%減）と前年同月並みとなった。

なお、過去5カ年の5月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は16.8%減と大幅に下回った一方、冷凍品は12.6%増とかなり大きく上回る結果となった。

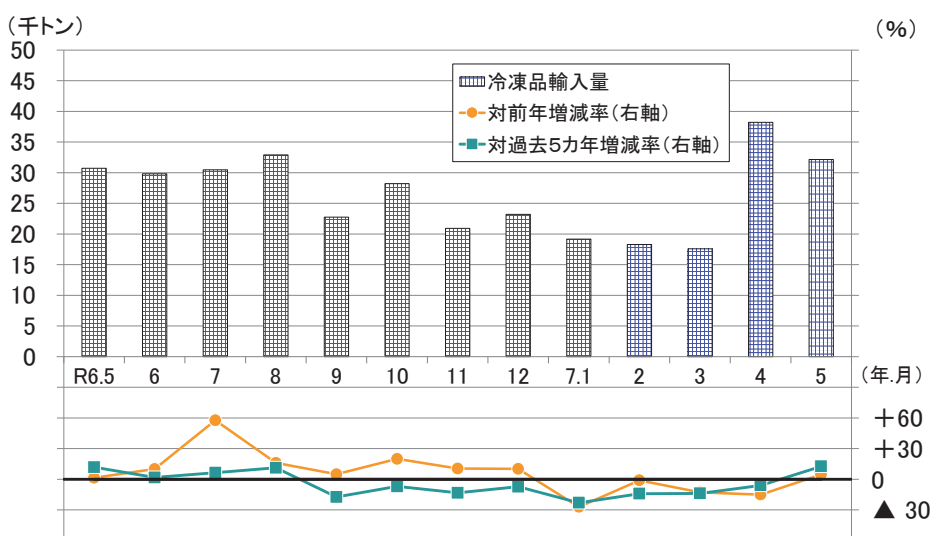
（注2）輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量等

5月の牛肉の家計消費量（全国1人当たり）^{（注3）}は155グラム（前年同月比6.4%減）と前年同月をかなりの程度下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較でも、21.0%減と大幅に下回る結果となった。

5月の外食産業全体の売上高は、ゴールデンウィークが飛び石連休となったが、近場での人出が増え連休中の需要は堅調に推移し、連休明け以降の落ち込みも比較的少なかったことから、前年同月比10.8%増と前年同月をかなりの程度上回った（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。

このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、人気キャラクターとのコラボ商品やお得なランチメニューなどが好調で、同15.2%増と前年同月をかなり大きく上回った。また、牛丼店を含むファストフードの和風は、客数は前年同月に比べわずかな

増加にとどまったが、週替わりの定食メニューなどが好調で、同9.9%増と前年同月をかなりの程度上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、若年層向けのフェア開催により平日の集客が好調で、同9.6%増と前年同月をかなりの程度上回った。

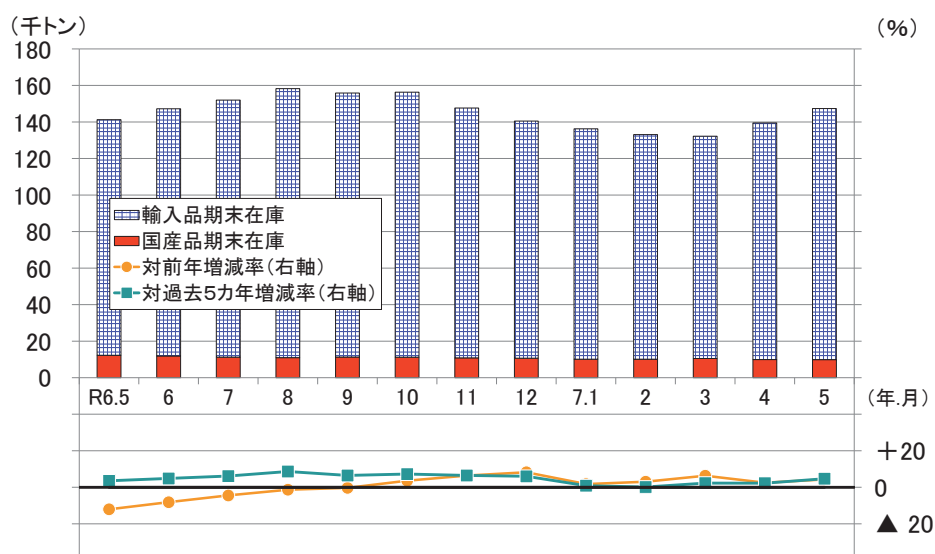
（注3）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

5月の推定期末在庫は、14万7373トン（前年同月比4.3%増）と前年同月をやや上回った（図4）。このうち、国産品は9891トン（同19.4%減）と前年同月を大幅に下回った一方、在庫の大半を占める輸入品は13万7482トン（同6.6%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

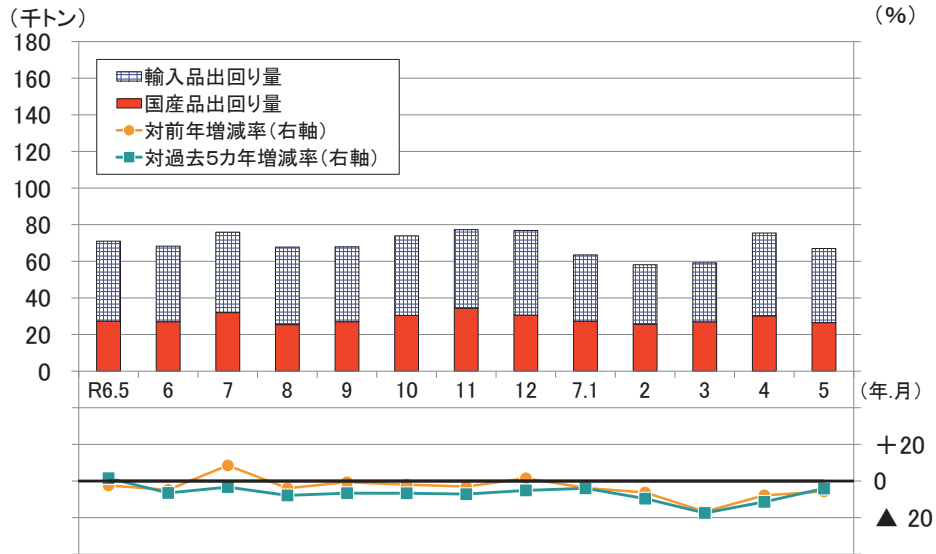
推定出回り量は、6万6966トン（同5.7%減）と前年同月をやや下回った（図5）。このうち、国産品は2万6505トン（同2.9%減）とわずかに、輸入品は4万461トン（同7.5%減）とかなりの程度、いずれも前年同月を下回った。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 丸吉 裕子)

豚 肉

7年5月の豚肉生産量、前年同月比4.0%減

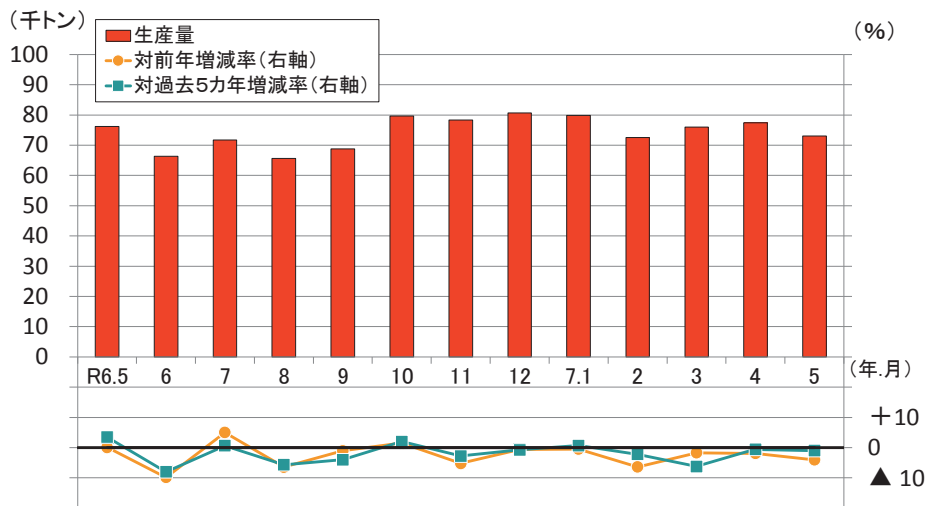
生産量

令和7年5月の豚肉生産量は、7万3100トン（前年同月比4.0%減）と前年同月をやや

下回った（図1）。

なお、過去5カ年の5月の平均生産量との比較でも、1.0%減とわずかに下回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

5月の輸入量について、冷蔵品は、米国産の価格が上昇する中、価格優位性が生じたカナダ産が増加したことなどから、3万4501トン（前年同月比2.9%増）と前年同月をわずかに上回った（図2）。冷凍品は、価格優位性のあるブラジル産が増加した一方、主要輸入先のうち北米産やデンマーク産が減少したことなどから、5万5954トン（同7.6%減）

と前年同月をかなりの程度下回った（図3）。この結果、輸入量の合計^{（注1）}では、9万460トン（同3.9%減）と前年同月をやや下回った。

なお、過去5カ年の5月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は5.6%増とやや、冷凍品は12.4%増とかなり大きく、いずれも上回る結果となった。

（注1）輸入量の合計は、くず肉を含む。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移

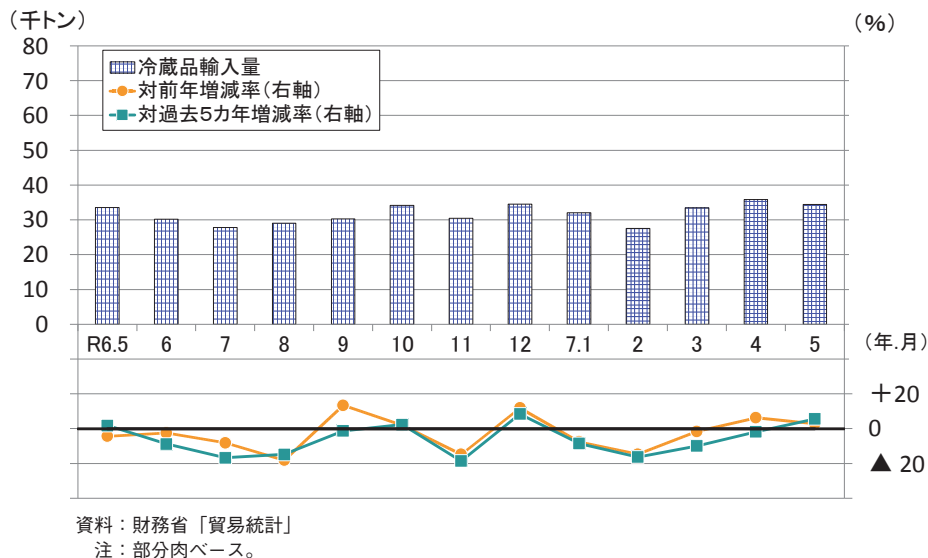
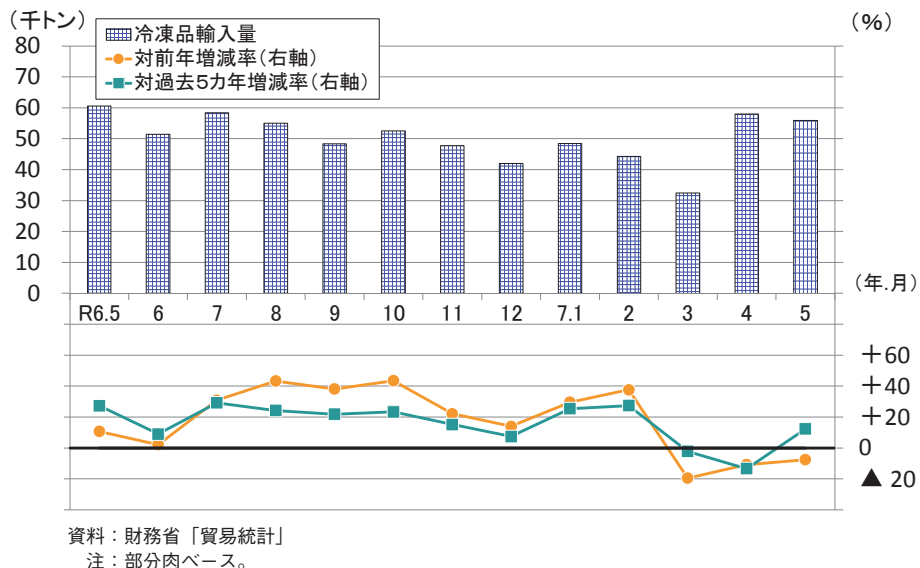


図3 冷凍豚肉輸入量の推移



家計消費量

5月の豚肉の家計消費量（全国1人当たり）^{（注2）}は、654グラム（前年同月比2.6%増）とわずかに上回る結果となった（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較でも、0.6%増とわずかに上回る結果となった。

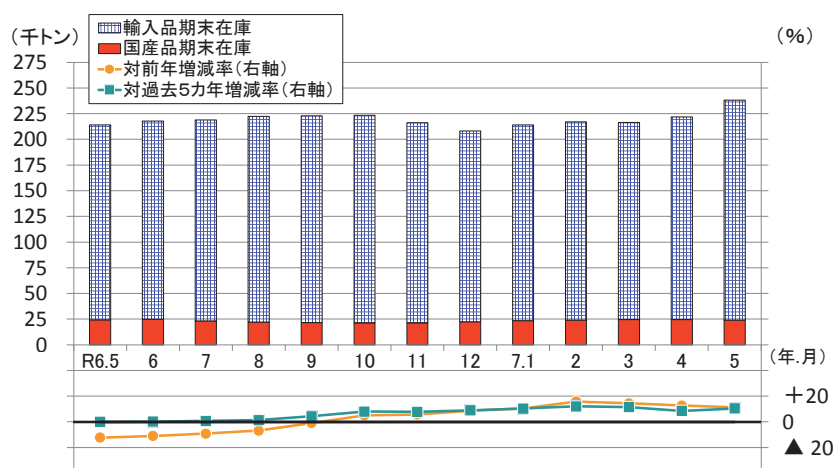
（注2） 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

5月の推定期末在庫は、23万8240トン（前年同月比11.2%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図4）。このうち、輸入品は、21万4149トン（同12.8%増）と前年同月をかなり大きく上回った。

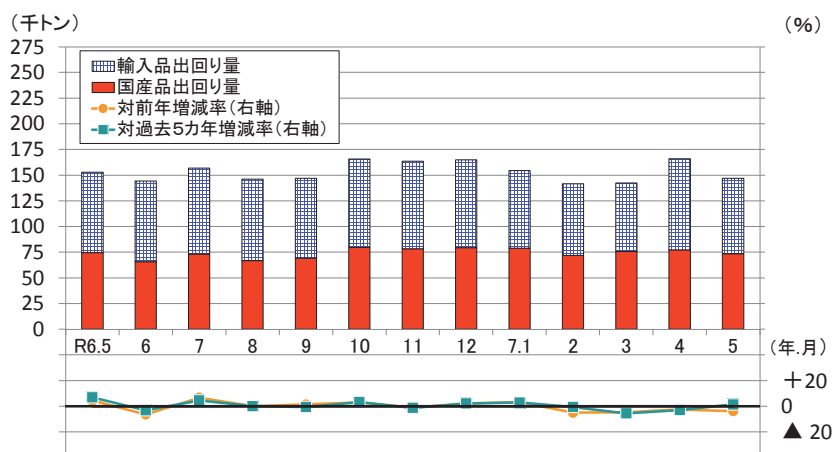
推定出回り量は、14万6973トン（同3.8%減）と前年同月をやや下回った（図5）。このうち、国産品は7万3406トン（同1.5%減）とわずかに、輸入品は7万3567トン（同6.0%減）とかなりの程度、いずれも前年同月を下回った。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

（畜産振興部 小森 香穂）

鶏 肉

7年5月の鶏肉生産量、前年同月比0.6%減

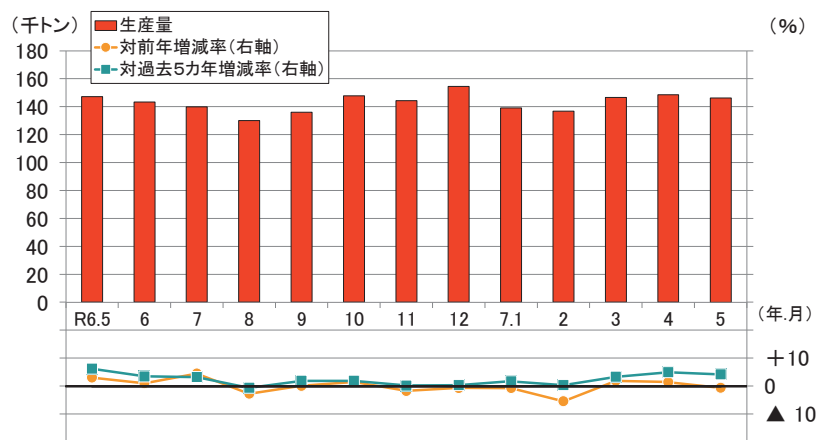
生産量

令和7年5月の鶏肉生産量は、14万6331トン（前年同月比0.6%減）と前年同月を

わずかに下回った（図1）。

なお、過去5カ年の5月の平均生産量との比較では、4.2%増とやや上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

注1：骨付き肉ベース。

注2：成鶏肉を含む。

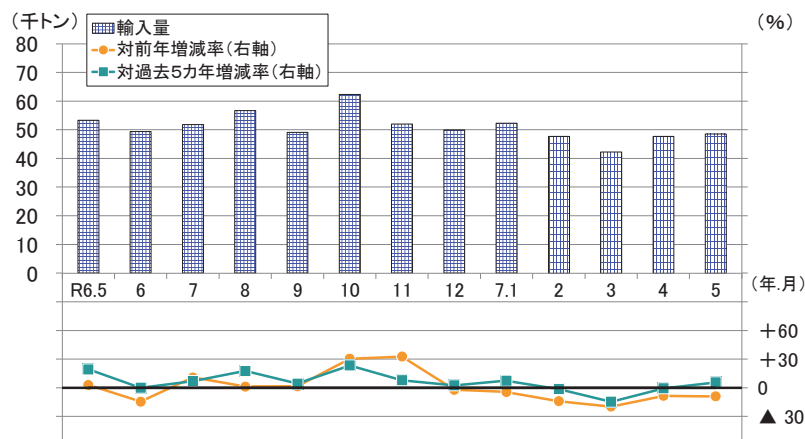
輸入量

5月の輸入量は、国内の節約志向を背景とした鶏肉需要により安定的に推移する中、前年同月のブラジル産輸入量が多かったこと

などから、4万8537トン（前年同月比8.9%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図2）。

なお、過去5カ年の5月の平均輸入量との比較では、5.6%増とやや上回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

家計消費量

5月の鶏肉の家計消費量（全国1人当たり）^{（注）}は、545グラムと前年同月並みとなった（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較では、2.2%増とわずかに上回る結果となった。

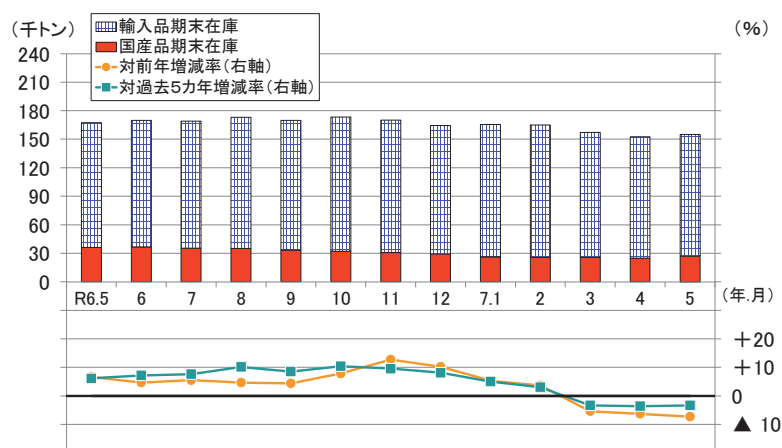
（注）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

5月の推定期末在庫は、15万5156トン（前年同月比7.3%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図3）。このうち、輸入品は12万8174トン（同2.2%減）と前年同月をわずかに下回る結果となった。

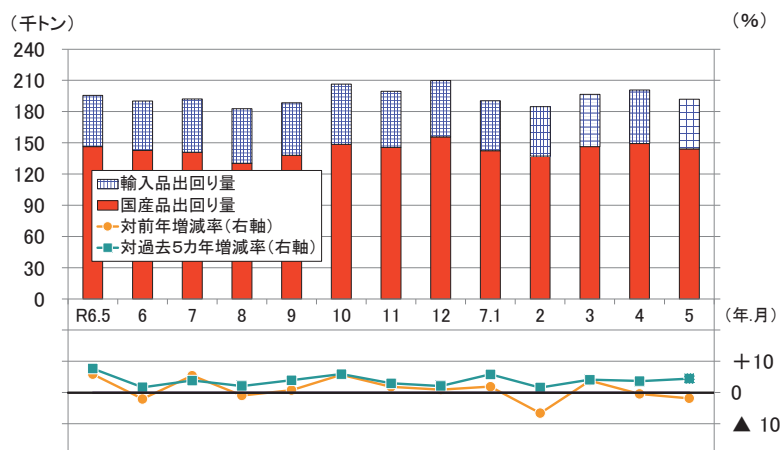
推定出回り量は、19万2117トン（同1.8%減）と前年同月をわずかに下回った（図4）。このうち、国産品は14万4322トン（同1.4%減）とわずかに、輸入品は4万7795トン（同3.0%減）とやや、いずれも前年同月を下回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

（畜産振興部 越川 紗弥）

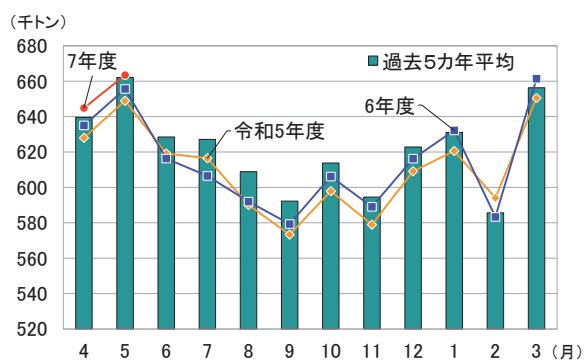
牛乳・乳製品

7年5月の全国の生乳生産量、3カ月連続で前年同月を上回る

北海道の生乳生産量、前年同月比2.2%増

令和7年5月の生乳生産量は、66万3438トン（前年同月比1.2%増）と3カ月連続で前年同月を上回り、前年2月がうるう年であった影響を除くと実質10カ月連続のプラスとなった（図1）。地域別では、北海道が37万9445トン（同2.2%増）となり、増加率は縮小するも、10カ月連続で前年同月を上回った。一方、都府県では28万3993トン（同0.2%減）と、11カ月連続で前年割れとなった。

図1 生乳生産量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

5月の生乳処理量を用途別に見ると、牛乳等向けは32万8482トン（同0.3%減）と、2カ月連続で前年同月並みとなった。このうち、業務用向けについては2万3649トン（同0.8%増）と3カ月連続で前年同月を上回った。

乳製品向けは33万1330トン（同3.0%増）と3カ月連続で前年同月を上回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは6万1542トン（同1.9%増）と4カ月ぶりに上回り、

チーズ向けは4万1488トン（同0.8%増）と3カ月連続で上回った。また、脱脂粉乳・バター等向けは、18万373トン（同3.0%増）となり、10カ月連続で前年同月を上回った（農畜産業振興機構調べ「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

全国の牛乳生産量、3カ月ぶりに前年同月を下回る

5月の牛乳等生産量を見ると、飲用牛乳等のうち牛乳は、26万2714キロリットル（前年同月比0.6%減）と3カ月ぶりに前年同月を下回った。また、成分調整牛乳は前年割れが続いており、1万7361キロリットル（同6.7%減）とかなりの程度下回った。加工乳についても、1万1449キロリットル（同7.2%減）と3カ月連続で下回った。

はっ酵乳は8万9916キロリットル（同0.3%減）と11カ月ぶりに下回った。

5月のバター在庫量、前年同月比11.5%増

5月のバターの生産量は7401トン（前年同月比3.9%増）と、生乳生産量の増加に伴い3カ月連続で前年同月を上回り、前年2月のうるう年を勘案すると実質10カ月連続での増加となった（図2）。出回り量も6691トン（同3.4%増）と前年同月を3カ月連続で上回った（農畜産業振興機構調べ）。在庫量については、9カ月連続で前年同月を上回り、5月末は3万1144トン（同11.5%増）となった（図3）。

図2 バターの生産量の推移

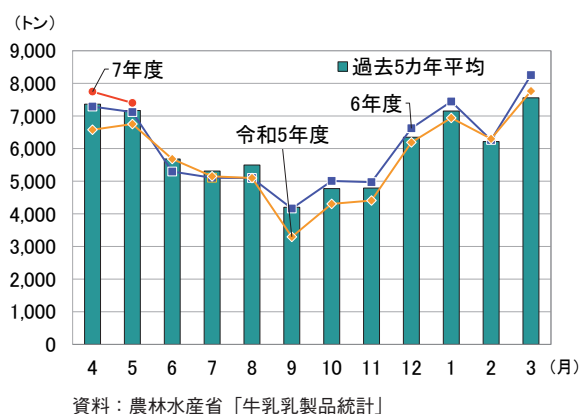


図4 脱脂粉乳の生産量の推移

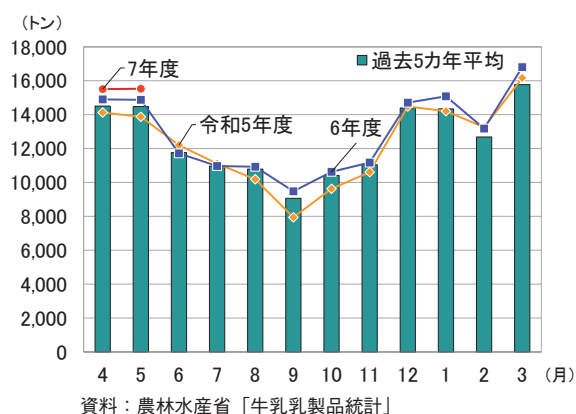


図3 バターの在庫量の推移

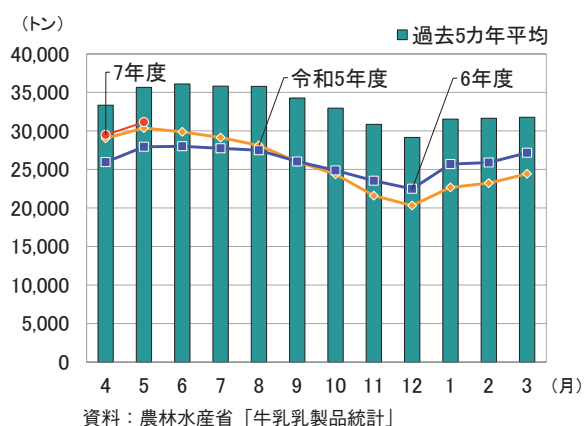
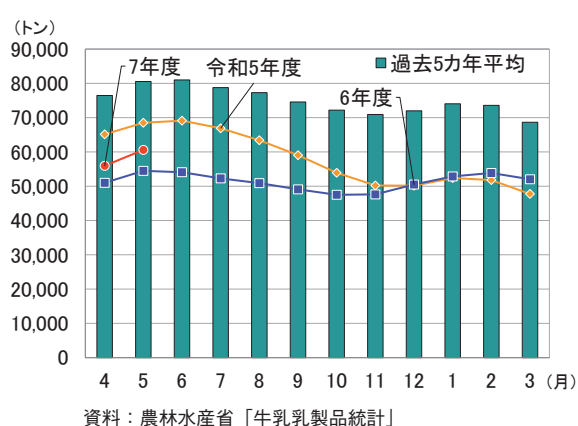


図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



5月の脱脂粉乳生産量、前年同月比4.4%増

5月の脱脂粉乳の生産量は、バターと同様、1万5526トン（前年同月比4.4%増）と3カ月連続で前年同月を上回った（図4）。一方、出回り量は1万880トン（同4.8%減）と4カ月連続で下回った（農畜産業振興機構調べ）。これにより、5月末の在庫量は、6万603トン（同11.2%増）と、6カ月連続で前年同月を上回り、1年9カ月ぶりに6万台となった（図5）。

7年度の指定乳製品等の輸入枠数量据え置き

農林水産省は令和7年6月20日、7年度の国家貿易による指定乳製品等の輸入枠数量の検証結果を発表した。これによると、バターの需要は業務用を中心に堅調ではあるものの、業界および関係者は乳価改定の影響により7年度のバター出回り量は6年度を下回ると見込む一方、直近の生乳生産量が1月時点の業界見通しよりも上振れしていることから、7年度末のバター在庫量は6年度末を上回ると見通している。このような状況を踏まえると、現時点でバターについて、本年12月の最需要期までの供給に大きな支障が生じる

とも在庫が過剰となるとも積極的に評価する状況にないことから、7年度の輸入枠数量(生乳換算で13万7000トン)^(注)を据え置くこととした。当機構は、今回の検証結果を踏まえ、引き続きバターなどの入札を実施する予定である。

(注) 品目別の内訳は、『畜産の情報』2025年3月号「6年12月の全国の生乳生産量、5カ月連続で前年同月を上回る」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003619.html)をご参照ください。

(酪農乳業部 田中 麻紀)

鶏 卵

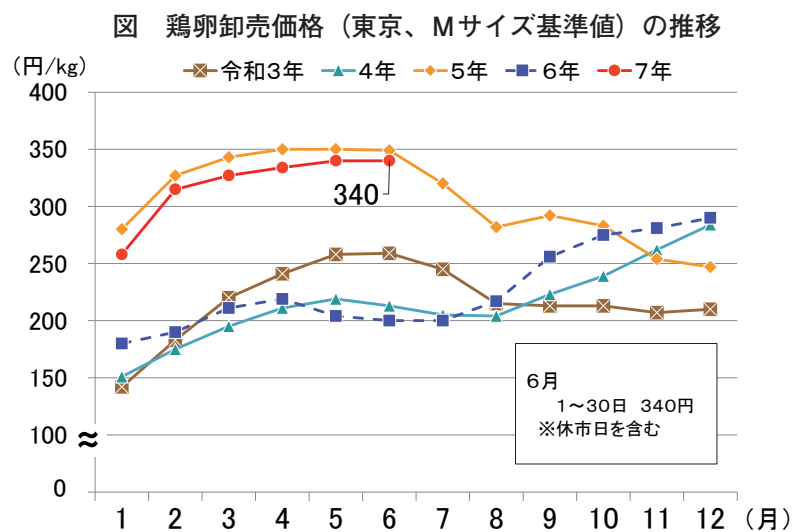
7年6月の鶏卵卸売価格、前年同月比70.0%高

卸売価格

令和7年6月の鶏卵卸売価格(東京、Mサイズ基準値)は、1キログラム当たり340円(前年同月差140円高、前年同月比70.0%高)と、前年同月の同価格を大幅に上回った(図)。同価格の日ごとの推移を見ると、1カ月を通して同340円となった。なお、過去5カ年の6月の平均卸売価格は236

円であり、それと比較しても、44.1%高と大幅に上回る結果となった。

供給面を見ると、昨冬の高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生農場における鶏の再導入が徐々に進んでいるものの、生産量は回復途上にある。一方、需要面を見ると、加工筋における在庫確保などに向けた引き合いが強くなっていることから、価格は高水準で推移していると考えられる。



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」
注：消費税を含まない。

家計消費量

5月の鶏卵の家計消費量（全国1人当たり）^{（注）}は、920グラム（前年同月比1.8%減）と前年同月をわずかに下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較では、3.0%減とやや下回る結果となった。

（注）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

（畜産振興部 越川 紗弥）